

大阪府立農芸高等学校 令和6年度 第3回学校運営協議会

日時：令和7年2月14日（金）15：00～17：00 校長室にて

出席者：農業大学校 根来様、 美原区区长 小川様、
同窓会会長 田中様、 PTA 会長 阪口様
校長、教頭、事務長、生活指導部長、進路指導部長、資源動物科科长、教務部長、

【開会】

1, 学校長挨拶

2, 学校運営協議会委員挨拶
農業大学校 根来様より

協議（司会：委員長）

（1）令和6年度授業アンケート結果について

校長「資料1より。今年度のアンケート内容は1～9までの9項目を問うている。7月と12月に2回アンケートを実施している。グーグルフォームを用いて実施した。資料は、1回目と2回目の評価を載せている。アンケートの回答は1～4となっており、3.0で75点。3.5で85点、4.0は100点と換算してご覧いただきたい。青で色をつけているところは3.0を下回っているところである。他校に比べても高い数値だといえる。自分の興味のある農業科目については、数値が高い。またICT環境も他校に比べ活用比率が高い。1年生の評価が高い。2, 3年生になると授業の難易度が高くなるため、評価が下がる傾向にある。経年変化について、（令和4年度～令和6年度）評価が上がっているところとしてはICTの活用である。それに伴い、他の観点についても上昇傾向にある。ただし全体平均値は令和4年度に比べて下降傾向にある。」

（2）学校教育自己診断結果について

校長「生徒、保護者、教員を対象にアンケートを行っている。アンケート項目については学校で決めている。それぞれの項目を資料2～4に記載している。また、令和6年度の学校運営計画の結果報告を記載している。3や4を回答しているものを肯定率として捉え、その数値の高いものをあげると、生徒の回答としては、ICT教育の肯定率が高い。授業評価だけでなく、学校生活全般においても評価が高い。80%未満の肯定率である項目をあげると、座学に関する項目が少し低い。生徒会クラブ活動についての項目が低い。実習があるため、全員が集まることができない環境であり、例年このような結果がでている。保護者の回答としても高い評価をいただいている。「生徒が授業をわかりやすいといっている」という項目は少し低い評価となっている。設備等ほかにも肯定率が低い傾向にある。教員の回答について、自己研鑽等肯定率が高い。設備施設について、情報交換や校内人事、意欲的に取り組める環境が整っていないと感じている教員の回答が多い。」

根来様「ICT活用について、具体的にどのように活用しているのか。クラブ活動の評価が低いとあるが、農業クラブは該当しないのか。」

校長「クラブ活動は生都会クラブ活動を指している。ICT活用について。グーグルクラスルームを活用している。教科科目ごとにクラスを作成している。授業内容を掲示したり、小テストを実施したりできる。また、長欠者とmeetをつないで授業に参加してもらおうといったこともできる。先生によって様々な活用方法がある。」

(3) 令和6年度評価・今年度の農芸高校の取り組みについて

校長「学校経営計画について説明。めざす学校像、中期的目標（3～5年）、左が生徒の肯定率、右が学校運営協議会でいただいた内容である。3ページ以降に、評価指標に対し、右に自己評価を記載している。○は概ね達成している、△は達成できなかった、十分超えているものには◎をつけている。詳細については、各分掌長より説明させていただく。その後次年度の計画を説明していきたい。」

山本「遅刻指導に関する点について説明。遅刻数10%減を目標としていたが、2572回で今年度は10%増となっている。昨年度途中より遅刻指導の指導内容を変更した。生徒一人ひとりと向き合った形の内容を模索している状況である。懲戒件数について21件で減少傾向にある。懲戒内容としては、SNS上でのコミュニケーションに関する問題が多い。生徒からの相談によって発覚することが多い。生徒が先生に話をできる環境についてはよいと思うが、コミュニケーション能力の向上やメディアリテラシーの指導については今後も徹底していく必要がある。以前は常に開門していたが、閉門するなど、学校安全に関する取り組みを進めている。大規模災害に備えて動物も含めた対応策を構築していく。」

鈴木「進路保障に向けて1年間動いてきた。就職、進学どちらもよくがんばった。就職については100%であった。進学については、3名が受験中である。国公立については12名合格者がおり、努力している。1年生へは、就職・進学どちらにおいても自己表現が必要なため、そういった進路学習を取り入れている。2年生はそれに加えて、奨学金についての説明・指導を行っている。本校生徒は奨学金を借りる生徒が多い。来年度も良い報告ができるようにがんばってほしい。」

稲葉「食物アレルギーに関する研修をおこなった。（エピペン講習）年に一回行っている。養護教諭による食中毒に関する研修を行った。カウンセリングについて、保健室に来室し、養護教諭がカウンセリングを行うことが多い。一人ではなかなか難しいため、教員全員がカウンセリングをできるようにしたい。」

葉山「ハイテク農芸科について。植物の栽培や園芸について教えている。生徒の意識が高く、2/3以上が農業に関する進路を考えている生徒が多い。すぐに就職したり起業したりすることは難しいので、大学へ進学したり、農業関係の公務員を目指す生徒が多い。今年度は農業系の就職先が多くないため、国公立の大学へ進学した生徒が7名いた。農業クラブ活動において、特急位に3名合格している。全国で1位をとった生徒もいる。農業技術検定では2級を合格した生徒がいる。全体の合格率は20%である。公務員試験においても3名合格した。大変よくがんばっている。」

中山「卒業生の外部講師を毎年よんでいる。去年卒業した株式会社ダイヤに就職した卒業生が、製パンの講師としてきてくれた。働き方改革も進んでおり、会議の時短や完全下校時間の設定等により、退庁時刻がはやくなった。インスタグラムを活用し、中学生がフォローしてくれているため、広報活動も成果をあげている。ただ、HPがなかなか更新できていない。今年度も夏は暑かったため、熱中症疑いが多かった。外部賞にチャレンジした生徒が多かった。賞をいただくこともできている。」

北田「プロジェクト2チーム、意見発表1名、近畿大会に出場した。プロジェクトチームは優秀賞をいただいた。農林水産省主催の大会では221チームから選ばれ全国大会に出場。優秀賞にあたる賞をいただいた。食育活動など外部での活動もできるようになってきた。働き方改革について、専攻の枠をこえて教員全体で対応し、技師と連携することで退庁時刻が早くなった。若手教員や講師が増加傾向にあるため、教育課程の見直しやシラバスを見直し、教員全体が取り組める環境を構築した。飼料費の高騰があり、活動を抑えなければならない

かと検討はしているが、魅力ある教育を推進するために構築を進めている。」

教頭「農場部の報告。別紙参照。主な表彰と資格取得、メディア掲載について説明。」

事務長「令和2～4年コロナの影響で、学校の活動を縮小していた。2年前の収入が2年後に入ってくるため、今年度、予算が足りない状況が続いている。追加予算を申請し続け、この2年やってきたが、物価の高騰化がすすみ、今までの予算ではやっていけない状況となった。また、令和6年度については、大阪府全体の予算も少なく、追加配当もまだ入ってきていない。今後、予算計画や執行等検討していかなければならない。」

校長「働き方改革について、最終時刻の設定をはじめ様々な取り組みを行い、残業時間を減らすことができた。会議においてもペーパーレス化が進んだ。省力化することができた。」

（4）令和7年度学校経営計画について

校長「知事の発言により、学校運営に大きな影響がでている。グローバル化に伴い、英語を話す力を育成しなければならないため、本校の目標にも入れている。本校は、LGH（リーディングギガハイスクール）、スマート専門高校事業、DX事業を導入しているため、この点について追加している。通信教育、オンライン授業についても本校で取り組みは始めている。単位認定や運営方法には課題がある。先生への負担も多い。人数加配もない状況である。今年度については模索しながら進めていた。次年度以降はさらに構築していかなければならない。ご意見をお願いしたい。」

阪口様「通信教育について周知はしているのか。中学校への案内など」

校長「基本は登校して授業を受けてもらう。病気等で登校することができないための生徒に対する対応である。」

田中様「オンライン授業をするのであれば負担が減るのではないか？」

井上「面接指導や添削指導等が履修条件となっているため、負担はある。面接指導の期間も狭いため、生徒にとっても負担が大きい。」

田中様「評価の公平性などが難しいのでは、不安的な要素が多いと感じる。」

中山「今年度については、面接指導で実習を行い、対象生徒用に改めてプログラムを用意した。また、試験も実施しないといけなかった。」

ご意見

根来様「農業系学校は放課後実習があるため、生徒会クラブに関する質問自体を変更してもよいのではないかと感じた。生徒会クラブに対して生徒のニーズがあるのかも知りたい。授業アンケートの結果について、農業系科目の数値が高いので、自信をもっているのではないかと感じた。コミュニケーション能力の低下は、就職、就農する上で必要なため、危惧している。農業クラブの活性化を今後もがんばってほしい。」

小川様「通信教育について、学校に登校できない生徒に対して、学習の保障ができているのはよいことだと感じた。登校できない生徒さんにとっても登校できるきっかけの一つになるのではないかと感じた。英語や数学が苦手な生徒さんが多い傾向ですが、何か取り組みがあればきかせていただきたいと思います。」

田中様「農芸高校の生徒であることに誇りをもっているという項目が、3年生になると肯定率が低下していることにショックを受けた。実感がないまま過ごされているのかと気になった。農業クラブや学校行事の取り組みに結びついていないのではないかと感じた。農場の経費については大変だと察する。収益だけでなく、命の大切さを学ぶ教育も大切にしている、

それが教育庁に伝わればと思う。中学生の志望者数も定員割れをしていないので。」

阪口様「経営面が本当に大変だと感じた。PTA の加入について、参加不参加を確認しなければならないため、どうなるか分からないが、一人でも多くの方に参加していただき、学校へ支援ができるようにしていければと考えている。コミュニケーション不足が増えていることについて、家庭内でスマホを触っていて家族とのコミュニケーションが減っていることもあると感じる。学校から家庭に伝えることもよいのではないかと感じた。学校の状況を父母はあまり分からないので、学校から伝えてもらえると、意識してもらえるのではないか。入学式などで現状をお伝えしていただいてもいいのではないか。」

校長「学校ですぐに取り組めるものからやっていきたい。予算についても何度も府庁へ足を運んでいるがなかなか難しい状況である。これからも様々な形で協力していただければありがたい。学校運営の見直しも必要となっている。」

3, その他

校長「来年度の協議会についても参加をいただきたい。また改めてお願いさせていただく。」

【閉会】